

林彪反党集團の 社会的基礎について

姚 文 元

林彪反党集团の 社会的基礎について

姚 文 元

外 文 出 版 社
北 京

林彪反党集団の社会的基礎について

1975年 初版発行

定価 50 円

出版者

外 文 出 版 社

(北京阜成門外百万荘)

発行者

中 国 国 際 書 店

(北京 P. O. Box 399)

取扱店

東方書店(東京) 亞東書店(東京)

中国書店(福岡) (株)内山書店(東京)

(株)漓江紅(東京) 朋友書店(京都)

(株)燎原書店(東京) 中華書店(東京)

番号: (日) 3050-2636

3-J-1361P

00015

毛主席のことば

レーニンはなぜブルジョア階級にたいして独裁をおこなうといったのか、この問題をはっきりさせなければならぬ。この問題をはっきりさせなければ、修正主義に変わってしまう。全国に理解させなければならない。

毛主席のことば

いまわが国でおこなわれているのは商品制度であり、賃金制度も不平等で、八級賃金制が存在している、などなど。これらはプロレタリア階級独裁のもとで制限を加えるほかはない。だから、林彪のたぐいが登場すれば、資本主義制度を実行するのはきわめて容易である。したがって、マルクス・レーニン主義の著作を、もっと読むようにしなければならぬ。

林彪反党集団の社会的基礎について

姚文元

毛主席は、プロレタリア階級がブルジョア階級にたいして独裁をおこなう問題をはつきりさせなければならぬ、と語ったさい、「林彪のたぐいが登場すれば、資本主義制度を実行するのはきわめて容易である。したがって、マルクス・レーニン主義の著作を、もっと読むようにしなければならない」と明確に指摘した。このことは、「林彪のたぐい」の階級の本質はなにか、林彪反党集団を生みだした社会的基礎はなにか、というきわめて重要な問題を提起している。この問題をはつきりさせることは、プロレタリア階級独裁をうち固め、資本主義の復活を防ぐうえで、また、社会主義の歴史的段階における党の基本路

線を断固として実行し、ブルジョア階級が存在することもできなければ、再び発生することもできないような条件を一步一步つくりだすうえで、疑いもなく、きわめて必要なことである。

すべての修正主義者、修正主義の思潮と同じように、林彪とその修正主義路線は、偶然の現象ではない。林彪とその一味は、全党、全軍、全国人民のあいだで極度に孤立していたが、これらの極度に孤立した、「天馬、空を行き」、「独り往き、独り来る」といった人物があらわれたことには、その深い社会的階級の基礎がある。

林彪反党集団が打倒された地主・ブルジョア階級の利益を代表し、打倒された反動派の、プロレタリア階級独裁をくつがえし、ブルジョア階級独裁を復活させようとする願いを代表していたこと、この点は比較的はつきりしている。林彪反党集団はプロレタリア文化大革命に反対し、わが国のプロレタリア階級独裁の社会主義制度を心の底から憎み、これを「封建的専制」とひぼうし、

「現代における秦の始皇帝」とののしつた。かれらは、地主分子、富農分子、反革命分子、悪質分子、右派分子に「政治的、経済的に真の解放をかちとらせ」ようとした。つまり、政治的、経済的に、プロレタリア階級独裁を地主・買弁ブルジョア階級独裁に変え、社会主義制度を資本主義制度に変えようとしたのである。必死に復活をはかるブルジョア階級の党内における代理人、林彪反党集団の、党とプロレタリア階級独裁にたいする攻撃は、狂暴をきわめるにいたり、最後には特務組織をつくり、反革命武装クーデターを画策するところまでつっぱしつた。こうした狂暴性は、国家権力と生産手段を失った反動派がその失った搾取階級の陣地を奪い返すためには、あらん限りの手段に訴えるものだ、ということを示している。われわれは、林彪が政治的、思想的に破たんしたあと、まるで命知らずのバクチ打ちのように、プロレタリア階級を「ひと呑みにしてしまおう」と、いちかばちかの賭けをこころみ、はては、国を裏切つて敵に身を投じたこと、毛主席、党中央が林彪にたいしてひじょうに辛抱づ

よい教育をほどこし、時間をあたえ、救いの手をさしのべたことも、かれの反革命の本性をみじんも変え得なかったことを目にしている。これらすべては、プロレタリア階級独裁のもとでの、プロレタリア階級とブルジョア階級という二大敵対階級の命がけの闘争を反映しており、こうした闘争は、ひじょうに長い期間にわたってつづくであろう。打倒された反動階級が存在するかぎり、党内（および社会）には、復活の願いを復活の行動に変えるブルジョア階級の代表者があらわれる可能性がある。したがって、警戒心を高め、内外の反動派のさまざまな陰謀を警戒し、粉碎しなければならず、けっして油断してはならない。しかし、こうした認識では、まだ事物の全部を認識したとはいえない。林彪反党集団は、打倒された地主・ブルジョア階級の復活の願いを代表しているばかりでなく、社会主義社会のなかで新しく生まれたブルジョア分子の権力奪取の願いをも代表している。かれらは、新しく生まれたブルジョア分子のいくつかの特徴をそなえており、そのうちの一部のものは、それ自身、新しく生ま

れたブルジョア分子である。かれらのとなえる一部のスローガンは、ブルジョア分子と、資本主義の道を歩もうとするものの、資本主義を発展させる必要に応えたものであり、これを反映したものである。われわれが一步すすんで分析をくわえる必要があるのは、まさにあとの側面である。

毛主席はつぎのように指摘している。「レーニンは『小生産は資本主義とブルジョア階級を、たえず、毎日、毎時間、自然発生的に、大規模に生みだしている』とのべている。労働者階級の一部、党員の一部にも、このような状況が存在している。プロレタリア階級のなかにも、機関の工作要員のなかにも、ブルジョア的生活作風にそまるものがある」と。林彪反党集団中の一部の人物は、このような新しく生まれたブルジョア階級と資本主義の代表者にほかならない。そのうちの、例えば林立果^①とその小「艦隊」^②は、まぎれもなく、社

① 林彪の長男

② 林彪反党集団の特務組織

会主義社会のなかで生まれた反社会主義のブルジョア分子であり、反革命分子である。

ブルジョア階級の影響の存在、国際帝国主義、修正主義の影響の存在が、新しいブルジョア分子を生みだす政治的、思想的根源である。そして、ブルジョア的権利の存在が、新しいブルジョア分子を生みだす重要な経済的基礎である。

レーニンはずぎのように指摘している。「共産主義社会の第一段階（これが普通には社会主義と呼ばれている）では、『ブルジョアの権利』は、完全に廃棄されるのではなく、部分的にだけ、すでに達成された経済的変革の度合に応じてだけ、すなわち生産手段にかんしてだけ、廃棄されるのである。」「しかし、このブルジョアの権利は、その他の面では、社会の成員のあいだの生産物の分配と労働分配の規制者（決定者）として、やはりのこっている。『働かざるものは食うべからず』——この社会主義的原則は、すでに実現されている。『等しい量の労働に等しい量の生産物を』——この社会主義的原則もまたすで

に実現されている。だが、これはまだ共產主義ではない。そして、これはまだ、不平等な人間の不等（事実上不等の）量の労働にたいして、等しい量の生産物をあたえる『ブルジョア的権利』を除去していない。」

毛主席もつぎのように指摘している。「中国は社会主義国家に属する。解放前は資本主義とほぼ同じであった。いまでも八級賃金制、労働に応じる分配、貨幣による交換がおこなわれている。これらは旧社会と大して変わらない。異なっているのは所有制が変わったことである。」「いまわが国でおこなわれているのは商品制度であり、賃金制度も不平等で、八級賃金制が存在している、などなど。これらはプロレタリア階級独裁のもとで制限を加えるほかはない。」

社会主義社会にはまだ、全人民的所有制と集団的所有制という二種類の社会主義所有制が存在しており、このことが、いまわが国でおこなわれているのは商品制度であるということを決定づけているのである。レーニンと毛主席の分析はいずれも、社会主義制度のもとでの分配と交換の面に、不可避免的に存在して

いるブルジョアの権利にたいしては、プロレタリア階級独裁のもとでこれに制限を加えるべきであり、それによつて長期にわたる社会主義革命の過程で、しだいに三大差異を縮小し、等級的差異を縮小し、こうした差異を消滅する物質的条件と精神的条件を一步一步つくりだしていくべきだ、ということとをわれわれに教えている。そうではなくて、逆に、ブルジョアの権利およびそれによつてもたらされる一部分の不平等を強固にし、拡大し、強化しようとするなら、必然的に両極への分化という現象が生まれてくるであろう。つまり、少数のものが分配の面である種の合法的なルートや多くの不法なルートを通じて、ますます多くの商品や貨幣を占有し、こうした「物質による刺激」で誘発される金もうけ、名利追求といった資本主義思想がはらんし、公のものを私物化し、投機売買、汚職腐敗、窃盗賄賂などの現象が多くなり、資本主義の商品交換の原則が政治生活、はては党内生活にまで侵入してきて、社会主義の計画経済を瓦解させることになり、また商品と貨幣を資本に転化させ、労働力を商品にす

るという資本主義的搾取行為が発生し、修正主義路線を實行する一部の部門と単位では、所有制の性質が変わり、勤労人民を抑圧し搾取する状態が再びあらわれることになるであろう。その結果、黨員、労働者、富裕な農民、国家机关の工作要員のなかから、プロレタリア階級と勤労人民を完全に裏切る少数の新しいブルジョア分子、成り上がり者が生まれてくる。労働者の同志が、「ブルジョアの権利を制限しなければ、ブルジョアの権利が社会主義の発展をさまたげ、資本主義の発展を助長する」といつているが、まったくその通りである。

経済面でのブルジョア階級の力がある程度まで増大してくると、その代理人は、政治面の支配を要求し、プロレタリア階級独裁と社会主義制度の転覆を要求し、社会主義的所有制の全面的変更を要求し、公然と資本主義制度を復活し発展させるようになる。そして、新しいブルジョア階級が政權の座につくと、なによりもまず人民に血なまぐさい弾圧をくわえ、思想・文化諸領域をふくむ上部構造で資本主義を復活させ、つづいて、資本と権力の大小に応じて分配を

おこない、「労働に応じて分配する」は形だけのものとなり、生産手段を独占したひとにぎりの新しいブルジョア分子が同時に消費財やその他の製品の分配権を独占してしまう。——これこそ、今日、ソ連ですでに発生している復活の過程なのである。

林彪反党集団が、どのように、手段をえらばず富をかき集めたか、どのように、飽くことなくブルジョア的生活様式を追求したか、どのように、ブルジョアの権利を利用して自分のために、明るみには出せない陰険で、醜悪な、さまざまな悪事を働いたかについては、多くの事実が、すでに暴露され、批判されている。しかし、よりはつきりと問題を説明できるのは、反革命クーデター計画の『「五七一工程」紀要』である。この計画のなかで、林彪反党集団が各階級のなかの一部のものを扇動、挑発してプロレタリア階級独裁に反対させるのに利用したのは、ほかでもなく、まさにブルジョアの権利の思想であつた。い

いかえれば、この計画に代表される階級的利益は、古いブルジョア階級の利益

をのぞけば、まさに一部の新しいブルジョア分子、およびブルジョアの権利を利用して資本主義を発展させようとする少数のものの利益であつた。したがつて、それは攻撃のほこ先を毛主席のプロレタリア革命路線に向けているし、また、わが国のプロレタリア階級独裁のもとで社会主義革命を通じて、ブルジョアの権利にたいし加えられているある種の制限をとりわけ憎悪しているのである。

国家機関の幹部が五・七幹部学校に参加することは、林彪反党集団によつて「形を変えた失業」とひぼうされ、機構を簡素化し、大衆に近づくことは、幹部に打撃をあたえるものとして攻撃されている。かれらにしてみれば、幹部は人民の頭上にあぐらをかくおえら方でなければならず、集团的生産労働にひとたび参加すれば、「失業」したことになる。これは、国家機関の工作要員のなかの、ブルジョアの権利を拡大し、おえら方になろうとする、ブルジョアの生活作風にすっかり染まつた一部のものを挑発して、党の路線に反対させ、社会

主義制度に反対させようとするものである。

知識分子が労働者、農民と結びつき、農山村に赴くことは、林彪反党集団によつて「形を変えた労働改造にひとしい」とひぼうされている。共産主義的自覚をもった多くの青年たちが、生氣にあふれてつぎつぎと農村に赴いていることは、三大差異を縮小し、ブルジョアの権利を制限するうえで深遠な意義をもつ偉大な事業であり、すべての革命的な人びとはこれを熱情こめてたたえているが、ブルジョア思想にむしろばまれたもの、とりわけブルジョアの権利の思想に縛られたものは、これに反対している。知識青年と労働者、農民との結合を堅持することができるかどうかは、大学の教育革命が、学生を労働者、農民のなかから募集するだけでなく、労働者、農民のなかにもどらせるという上海工作機械工場の道を堅持することができるかどうかに直接つながるものである。林彪反党集団がこれを取りわけ憎悪したのは、かれらが勤労人民と対立していたことを示すだけでなく、かれらがブルジョアの権利を利用して党に攻撃をか